

2022年度国際版画美術館事業報告書【展覧会版】

展覧会名	彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動			担当者名	町村悠香、川添愛奈			
会期	2022年4月23日(土)～7月3日(日)			開催日数	62日			
協賛・後援・協力	助成:芸術文化振興基金							
巡回館	なし							
展覧会概要	本展では戦後日本で展開した2つの民衆版画運動を紹介した。1つは中国の木刻(木版画)運動の影響で版画による社会運動と版画の普及を目指した戦後版画運動。もう1つは、戦後版画運動から派生し、全国の小中学校教員たちが学校教育のなかで版画教育を広めた教育版画運動である。約400点の豊富な作品と資料を通して、あまり知られることのなかった版画史の一侧面に光を当てる機会とした。							
ねらい・対象	2つの民衆版画運動を連続した事象として捉える初めての展覧会として開催した。ちらしやHPの紹介文冒頭では「子どもの頃に版画を作ったことはありますか?」と問いかけ、キヤッチコピーは「工場で、田んぼで、教室で、みんな、かつては版画家だった」とした。これにより多くの人が学校で経験した版画制作の記憶を呼び起こし、自分が行った活動に実は歴史的な背景があったことを知ってもらい興味を喚起することをねらった。また戦後の様々な社会問題、平和運動を扱った作品を展示したため、ニュースなどに关心を持つ層にもアプローチした。							
関連催事	催事名	開催日	タイトル		講師等	参加者数		
	版画作品募集	会期中全日程	「私も版画家だった」			19人		
	トークイベント	5月21日(土)	「アーティストがみる教育版画」		湯浅克俊 聞き手:担当学芸員	41人		
	子ども講座	5月7日(土)	みてみてつくろう 「昭和にタイムトラベル!ガリ版にチャレンジ」		杉浦幸子 制作指導:普及係学芸員 上村牧子	16人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	会期中の 毎週木曜日(10回)	おはなしのじかん		せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー	189人		
	絵本・紙芝居読み聞かせ	5月14日(土)	みんなのステージ		せりがや冒険遊び場ブ レーリーダー、担当学芸員	60人		
	上映会	6月4日(土)	教育映画『たのしいはんが』解説付き上映会		担当学芸員	52人		
	スライドトーク	5月8日(日)、 6月18日(土)	担当学芸員によるスライドトーク		担当学芸員	79人		
	プロムナード・コンサート	6月19日(日)	「うたごえ喫茶で甦る青春」		奥村浩樹(テノール)、 鶴戸西到(ピアノ)	130人		
観覧料	一般	大・高生	中学生以下	無料日				
	900 円	450 円	無料	・初日:4/23 ・シルバーデー(65歳以上無料):4/27,5/25,6/22				
	有料計	無料計	総観覧者数	内、一般	内、大・高生	内、小・中生		
	5,986 人	2,853 人	8,839 人	7,349 人	511 人	500 人		
	目標値					9,576 人		
主な収入	観覧料収入		図録販売収入	受託販売収入		その他の特定財源		
	4,638 千円		2,012 千円	469 千円		3,000 千円		
事業経費	・講師謝礼			128千円				
	・原稿執筆謝礼			198千円				
	・展覧会出陳謝礼			116千円				
	・通信運搬費			3,995千円				
	・作品額装委託料			602千円		10,671 千円		
	・広告宣伝委託料			1,070千円				
	・ポスター等作成委託料			3,517千円				
	・ディスプレイ作成委託料			1,045千円				
主な広報・取材等の講評	【新聞(文化面)】読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、東京新聞、しんぶん赤旗、共同通信配信記事 【雑誌】芸術新潮、月刊アートコレクターズ、週刊文春 【ウェブ】ARTNewsJapan、Tokyo Art Beat、朝日新聞Globe+、美術手帖webほか(新聞、雑誌、ウェブはいずれも展覧会レビュー)							



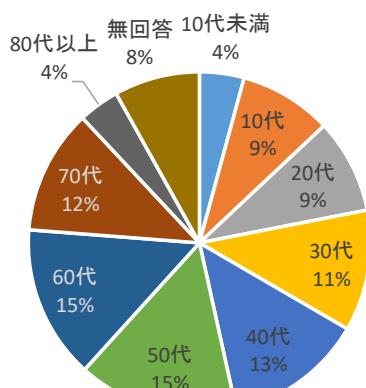
# 「彫刻刀が刻む戦後日本—2つの民衆版画運動」展

## アンケート集計結果

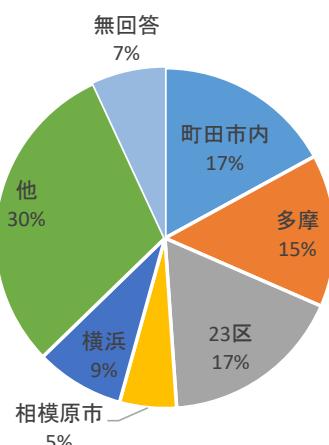
開催期間：2022年4月23日（土）～7月3日（日）

回答者数：594人（総入館者数：8,839人 アンケート回収率：6.7%）

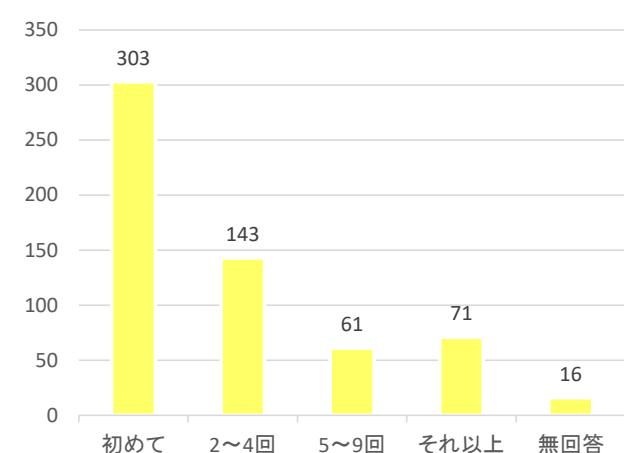
### ①年齢層



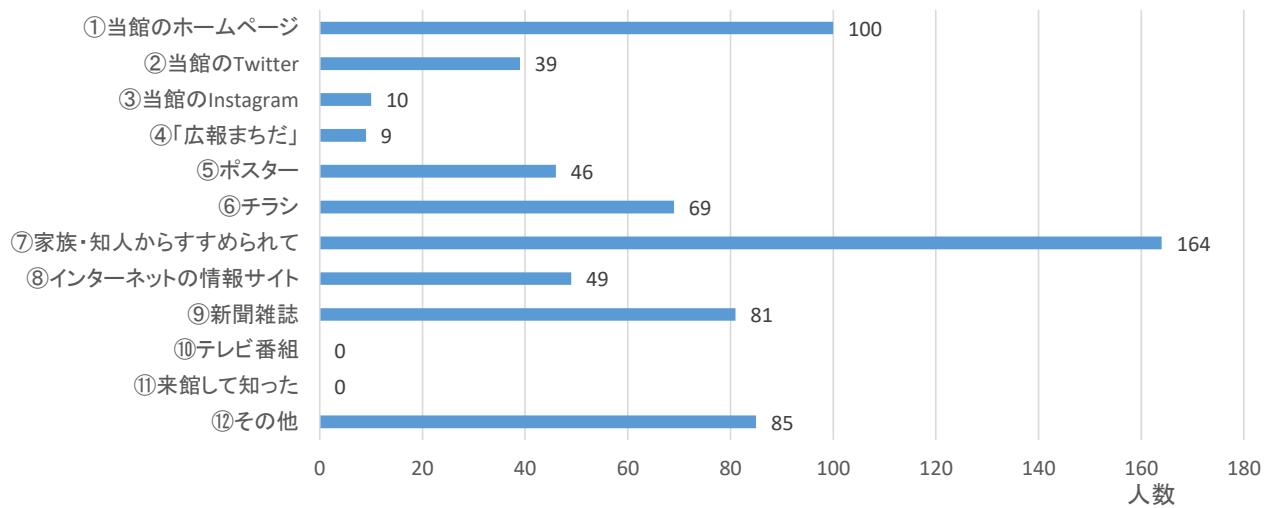
### ②お住まい



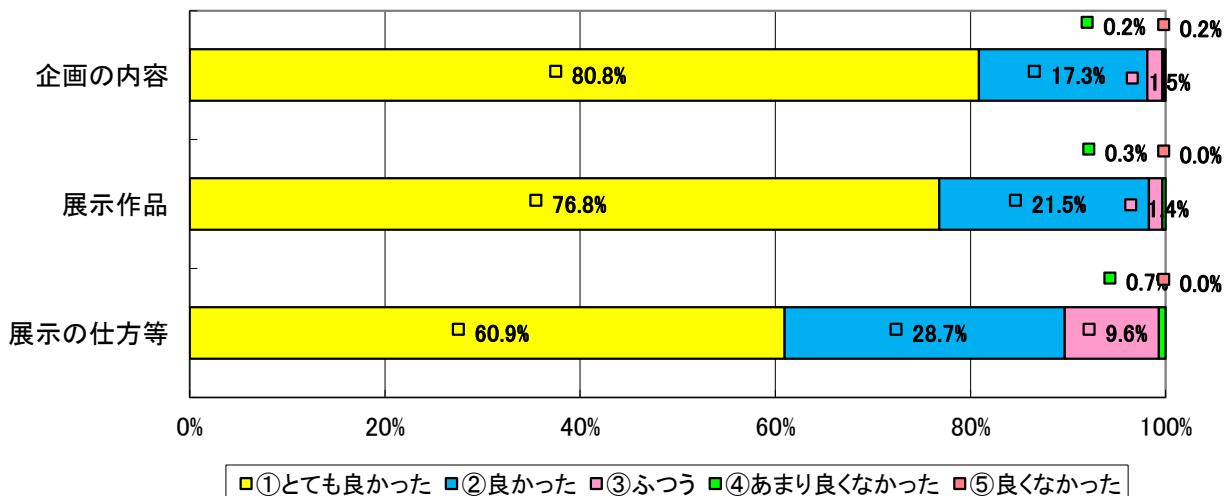
### ④ご来館回数



### 展覧会情報の入手



## ⑥ 回答者の満足度



## ⑦ 主なご意見・感想

### ◆企画の内容

- ・子どものころ図工でやった版画が戦前戦後からの美術の流れの先にあったとはとても驚きだった。
- ・戦後の図工・美術教育を顧みる珍しい展覧会で意義が深い。
- ・丁寧なリサーチの成果がキュレーションに發揮されていた。
- ・知らなかつた版画の歴史を知ることができ、版画の専門館らしい企画でよかったです。
- ・平和の大切さを改めて感じた。

### ◆展示作品

- ・子どもたちの作品のエネルギーに圧倒され、感動した。特に共同制作大型作品が素晴らしい。
- ・「魔女の宅急便」の劇中画のもとになった作品を見られて嬉しかった。目当ての作品以外も素晴らしく、歴史的背景も知ることができた。
- ・版画と漫画の関連性を知ることができて興味深かった。
- ・テレビが娯楽として現れる前、サークルを作っている人がアマチュアとして版画やその他の芸術を楽しみ制作していたことが知れて面白かった。
- ・中国木刻の表現に触れることができてよかったです。
- ・版画とはこんなにも迫力があり、心に訴えるメッセージ性があるのだと初めて知った。

### ◆展示の仕方やキャプション

- ・十分な説明と補足があって分かりやすかった。
- ・撮影できる作品があるのはよいが、可能箇所をもう少し増やしてほしい。
- ・作品によっては照明がアクリル面に反射していて見えにくかった。

### ◆その他、感想・要望など

- ・自分も子ども時代に共同制作で大型作品を作ったことを思い出した。自分の経験もこうした歴史の流れのなかにあったものだと理解できた。
- ・自分の母校で担任の先生が指導した作品があり、とても懐かしく嬉しかった。
- ・生活綴り方と版画、うたごえ運動、労働運動や中国文化とのつながりなど、自分の中でしっくりこなかったことが一つにまとまりました。
- ・今では図工・美術の時間が減って版画をあまり作らなくなっているのが残念。
- ・ケーテ・コルヴィッツの展覧会が見たい。
- ・教育版画の作品をもっと見たい。
- ・自分も版画を作りたくなった。

アンケート回収率が6.7%と高く(通常3~4%台が多い)来館者の反響が大きかった。

集計結果では50代、60代が最も多いが、30代~70代が各年代10%を超えており、幅広い年齢層にアプローチできた。

地域をみると「その他」が最も多く、遠方から本展のために来館した人が多かった。このことは初めて来館した人の割合が高かったこととも連動していると考えられる。

情報源は「⑦家族・知人からすすめられて」が最も多く、来館者個人のSNSを介した口コミ効果が大きかった。